

令和3年度学校自己評価システムシート（県立秩父特別支援学校）

目指す学校像	児童生徒同士の学び合い、教職員同士の学び合いを推進する学校 児童生徒が心身共に健康で、持てる力を発揮できる学校 児童生徒が将来への自信や生きがいを感じ、自立（自律）できる生活力を育成する学校 児童生徒と教職員・地域が、元気で笑顔の絶えない、共に暮らしながら成長する学校
--------	---

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

重点目標	1 児童生徒一人一人の障害の状態や特性及び教育的ニーズを的確に把握し、個に応じた自立活動の視点を踏まえた集団及び個別の授業を実践し、専門性を向上させる。 2 保護者・地域の学校等関係機関との連携を密にし、交流及び共同学習、支援籍学習、現場実習、研修会、巡回相談の内容を充実させて、地域の特別支援教育に貢献する。 3 児童生徒の安全を確保し、児童生徒自らが生涯を通して、健康に生きる力を身につける教育活動を展開する。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

出席者	学校関係者 生徒 事務局(教職員)	名 名 名
-----	-------------------------	-------------

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標					年 度 評 価 (月 日 現 在)		実 施 日	令 和 年 月 日
番号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策	学 校 関 係 者 か ら の 意 見 ・ 要 望 ・ 評 価 等
1	校内での研修会の充実、ICT機器を活用した授業の取り組み、教材データの共有活用が進み教育力の向上につながっている。引き続き秩父スタイルの指導体制で指導支援の充実を図る。また、新学習指導要領に示された観点別評価について、根拠に基づく指導支援を確立するためにもその方法を検証、検討していく。	指導支援の専門性の向上	①各学部は自立活動部と連携し自立活動の視点を踏まえた授業実践を行う。 ②学校研究テーマに基づき各学部で授業研究を行い、課題や成果を共有する。 ③新学習指導要領に示された観点別評価について各学部で検証、検討を行う。	①自立活動部と連携し自立活動の視点を踏まえた授業実践を行ったか。 ②学校研究テーマに基づき各学部で授業研究を行い、課題や成果を共有したか。 ③各学部は観点別評価について検証検討したか。				
	GIGAスクール構想でICT機器の整備や活用環境が整備された。家庭での活用も踏まえ校内でのルールを整えたと共に、児童生徒の実態に応じた指導に活用していく。	ICTの活用	①通知に基づき暫定的に校内ルールを定める。 ②児童生徒の実態に応じた活用を実践しながらルール運用上の課題を各学部で洗い出す。 ③家庭に対し進捗状況を伝えると共に、家庭での活用に応じた課題を把握する。 ④他校とも情報を共有しながら運用上の課題を解決し、校内ルールを整える。	①暫定的にルールを定めたか ②ルール運用上の課題を洗い出したか。 ③家庭に進捗状況を伝えると共に、活用にあたっての課題を把握できたか。 ④運用上の課題を解決し校内ルールを整えたか。				
	昨年度作成したランドデザイン（試案）に基づく教育活動の成果と課題を検証し完成版にする。	ランドデザインの完成	①試案で整理した目標達成に向けた具体的方策を学校自己評価システムシートに反映させる。 ②試案に基づく具体策の進捗状況を踏まえ、成果と課題を検討し、完成版を作成する。	①具体的方策を学校自己評価シートに反映させたか。 ②成果と課題を検証し完成版を作成したか。				
2	交流及び共同学習や支援籍学習、現場実習などコロナ禍ではあるが、相手校や事業所、企業との調整を行い、実施形態を工夫するなどして継続して実施する。	交流及び共同学習、現場実習等の実施	①感染防止を第一に考え、実施の可否については感染状況を踏まえ相手方と調整を行う。 ②リモートでの活動など実施形態を工夫する。 ③進路指導に関しては、ハローワークや福祉課など関係機関と連携して情報を収集し職場開拓につなげる。	①感染状況を踏まえ調整を行ったか。 ②実施形態を工夫したか。 ③関係機関と連携して情報を収集し職場開拓につなげたか。				
	地域の特別支援教育の拠点として地域教育支援専門家チームの活用を行ってきている。活用の一層の促進を運営委員会で推進していく。	専門家チームの活用	①教育的ニーズを把握するために専門家チームのパフォーマンスをわかりやすく伝える。 ②地域の教育的ニーズを踏まえ、専門家チームの活用を調整する。	①専門家チームのパフォーマンスをわかりやすく伝えたか。 ②ニーズを踏まえ活用を調整したか。				
3	新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、感染防止対策を引き続き行い、教育活動を途切れさせない。昨年度引き渡し訓練を実施し成果と課題が明らかになった。今年度は、防災マニュアルを改訂し、防災体制全般を見直す。	安全、安心な学校運営	①感染防止対策を引き続き実施する。保健指導や感染防止対策の取り組み状況を確認する際は学校医の助言を参考に改善を図る。 ②引き渡し訓練の成果と課題を踏まえ、防災マニュアルの改訂も含め、防災教育全般を見直す。	①取り組み状況を確認する際、学校医の助言を得て改善できたか。 ②防災マニュアルの改訂を含め、防災教育全般を見直したか。				
	日常生活や地域での生活が充実するよう一層福祉事業所や行政機関と連携する。医療的ケアの必要な児童生徒の放課後、卒業後の活動場所については引き続き各市町に働きかけると共に秩父地域自立支援協議会に参加し引き続き協議をしていく。また、ロードサポート事業への取り組みなど地域貢献活動を推進する。	地域、関係機関との連携	①児童生徒の実態や保護者のニーズを福祉サービスの充実や就労に関する実情や要望を引き続き行政機関に伝える。 ②感染防止対策をとり可能な範囲で地域貢献活動を推進する。	①実情や要望を把握し、行政機関に伝えたか。 ②感染防止対策を図りながら地域貢献活動が実施できたか。				